

葉の化石

木の葉石（文字通り「木の葉の石」）は、塩原にあったかつてのカルデラ湖の乾燥した地層で見つかった、化石化した葉である。ここでは、完全な形で保存された淡水魚や小動物の化石も検出されている。今日、森林に生息している樹木や動物は、湖周辺に生息していた古代の動植物とほとんど同じである。葉の化石の中には、現代の栗やブナの木の葉と完全に一致するものもある。

柔らかい湖底に沈んだ葉や死んだ動物は、すぐに微粒の堆積物で覆われ、低酸素な環境に包まれたため、有機物を分解する微生物から守られた。その結果、これらの化石の多くは、一本一本のネズミの毛といった細かい部分まで保存されている。その後の火山活動により湖底は持ち上げられ、湖水がゆっくりと流れ出た。そして箒川が徐々に堆積物の層を浸食し、化石や木の葉石が露出したのである。